



てくてく

福井大学教育学部附属特別支援学校 教育相談部

2025. 1. 28 (火) 発行

福井県福井市ハツ島町 1-3

TEL 0776-22-6781 FAX 0776-22-6776

<http://www.f-edu.u-fukui.ac.jp/~f-tokusi/>

「てくてく」は、附属特別支援学校が行った交流及び共同学習を紹介する情報紙です。令和6年度も、居住地校交流や学校間交流、制作や販売を通じた交流などのさまざまな交流を行い、いろいろな人たちとの関わりの中で学びを深めることができました。各学部の取組についてご紹介します。

小学部

居住地校交流

今年度の小学部は、12名の児童が居住地校交流を行いました。個々のニーズに応じて、通常の学級や特別支援学級と交流しました。普段と違う環境の中で少し緊張した児童もいたようですが、いろいろな友達と一緒に活動し関わり合うことができました。

★Aさんの居住地校交流の様子★

Aさんは、居住地の小学校の同じ学年の通常学級と交流しました。最初に、好きな物のイラストを見せながら自己紹介を行いました。交流学級の児童から「私も好き。」や「〇〇は好きですか。」などの感想や質問が聞かれました。音楽の授業では、隣の席の児童と「やまびこごっこ」の曲を交互に歌い合ったり、自分の考えた歌詞をみんなの前で発表したりしました。その後の休み時間はグラウンドに出て、全校児童と一緒に走りました。交流学級の児童から励まされながら、頑張って時間いっぱい走ることができました。図工の授業では、班に分かれてペットボトルのキャップを好きな形に並べる活動を行いました。Aさんは、同じ班の児童が作ったリボンの形が気に入り、「教えて。」とお願いしていました。その児童から「ここに置いてね。」と指さされる所にキャップを置きながら、リボンの形を作りました。でき上がると、「できた。」と満足そうにしていました。お別れの際にはみんなに囲まれて、「次はいつ来るの。」と言われ、挨拶をし合い、お互いに別れを惜しんでいました。Aさんは、交流を終えて「楽しかった。」と笑顔で話していました。



★Bさんの居住地校交流の様子★

Bさんは、居住地の小学校の特別支援学級と交流しました。まずは、「爆弾ゲーム!で自己紹介」ということで、音楽が止まったところで、回していたボールを持っていた人が、「好きな動物」や「好きなキャラクター」などのお題に答えました。楽しく、お互いのことを知ることができました。次はミュージックケアで、カルメンの曲に乗って新聞紙を破いたり揺らしたりしました。曲の中でBさんがよく笑う曲調のところがあったのですが、何人かがBさんの近くに集まり、より笑わせようと、タイミングを見計らって、新聞紙で大きな音を立ててくれました。みんなBさんのことをよく見て、よく感じて接してくれていることが分かりました。6年生としてこの小学校での最後の交流だったこともあり、学校に帰ってからも「お友達…寂しい。」と温かった小学校の余韻にしばらく浸っていました。



小学部 居住地校交流 相手校

明新小学校 社北小学校 東藤島小学校 中藤小学校 木部小学校
高椋小学校 木田小学校 清明小学校 東安居小学校

中学部

居住地校交流

6月に中学部の生徒1名が居住地の中学校へ交流に出かけました。互いの学校紹介やトランプを使ったゲームなどをして交流を深め、楽しい時間を過ごしました。

7月には、生徒2名が居住地の中学校で交流をしました。本校のゆうゆうタイムでの活動の一つである、牛乳パックを使った紙すきをしました。中学校の特別支援学級の皆さんが、事前に牛乳パックからパルプ液を作ってください、本校の生徒が紙すきの方法を実演しながら一緒に活動しました。小学校時代の友達との再会を喜び、仲良く話したり活動したりする生徒の姿や、初めての場所に緊張しながらも、慣れた活動や好きな活動を通して交流する生徒の姿が見られ、有意義な時間になりました。

中学部 居住地校交流 相手校 光陽中学校 藤島中学校

ゆうゆうタイムでの交流

8月の育友会行事で、「親子お楽しみ会」をトリムパークかなづで行いました。福井ブローウィングズの選手2名をお迎えして、親子でバスケットボールを楽しみました。中学部の鳥グループでは、保護者からの依頼を受け、福井ブローウィングズのキャラクターであるブーズくんのマグネットを制作し、選手とスタッフの皆さんにプレゼントしました。たまご形のプラスチックに花紙を貼り、ブーズくんの色にする係、折り紙で洋服を作る係、紙粘土で腕のパーツを作る係、組み立てる係などに分業し、グループ7人みんなで協力してたくさんのマグネットを制作することができました。お楽しみ会当日には、生徒から選手へ直接プレゼントしました。選手やスタッフの方が喜ぶ顔を見ることができ、生徒も満足感を得ている様子でした。



12月19日(木)に、中学部の花グループの生徒7名が、隣接する藤島中学校の特別支援学級と交流学習を行いました。一昨年度、昨年度に続き3回目となる今年度は、ゆうゆうタイムの時間に行ってきた「封筒作り」で交流をしました。封筒の型取りや切り抜きから行う生徒、組み立てから行う生徒など、自分たちが制作できる工程から始めました。封筒を成形した後は、好きなイラストを描く、筆ペンで文字を書く、染めた和紙を貼るなどの飾り付けをしました。「おとしだま」のはんこを押して、お年玉用のポチ袋に仕上げる生徒もいました。花グループの生徒たちは、藤島中学校の友達の分のはんこを押したり、材料や道具のやり取りをしたりしながら制作していました。完成後は、作った封筒をみんなで見せ合って互いの良さを認め合い、満足そうな表情でした。自分が作った封筒を友達や先生にプレゼントした生徒は、喜んでもらったことで達成感も得られた様子でした。



高等部

紙と刷り班 くにみクラゲ公民館との交流



くにみクラゲ公民館館長の田中さんが昨年度の春の虹の市に来てくださったとき、紙と刷り班の水引の製品を見て「クラゲに似ている！」と喜んでくださいました。それがきっかけとなり、紙と刷り班の製品作りや販売に協力して下さることになりました。6月に公民館を訪問し、館内の生き物を見て回ったり、売れる製品について教えてもらったりしました。その後、クラゲや海の生き物のデザインをイラストや貼り絵で表現して、封筒やノートの表紙などに印刷したり、水引でクラゲのキーホルダーを作ったりしました。頑張って作った製品を持って7月に納品に行き、夏休み中に販売してもらいました。「ノートやキーホルダーなど実用的で使い道が分かりやすいものが売れていた。」という田中さんの言葉を受けて、「ノートをたくさん作ろう。」「キーホルダーに鈴を付けるとどうか。」などと今後取り組むとよいことが生徒たちから出てきました。そこからまた、製品作りが始まりました。今回のくにみクラゲ公民館との交流は、売れる製品を作るための工夫などを学ぶよい機会となりました。

冬休み前に、今年度最後の納品に行きました。くにみクラゲ公民館に行かれた際は、紙と刷り班の製品もぜひご覧になってください。

紙と刷り班 藤島中学校へ賞状を

今年度も紙と刷り班に藤島中学校生徒会の皆さんから「体育祭の賞状を作ってくださいませんか。」とのビデオレターが届きました。今年度でこの交流も3年目となりました。生徒会の生徒さんとのやり取りを重ね、赤青黄緑の色花紙を入れた賞状をすきました。注文された30枚の賞状をすくには大量のパルプ(紙のもと)が必要です。本校は、牛乳パックを再生して紙をすいています。牛乳パックのラミネートをはがしたものを藤島中学校の生徒さんも持ってきてくれました。たくさんの牛乳パックを切って、パルプはがしをしたりミキサー掛けをしたりして、みんなで協力して素敵な賞状が完成しました。



ワークフェア



9月7日・8日にショッピングシティベルで開催されたワークフェアで、7日、高等部が仕事班の製品を販売しました。夏休み明けすぐから、全員で製品を準備し、レジや接客、袋詰めなどの練習をしたり、チラシを作成したりしました。当日は、本校の先生や保護者の方、他学部の友達、本校を卒業した先輩方、事業所の方などたくさんの方が会いに来てくれました。また、一般のお客さんとも触れ合う機会となり、手に取って商品を褒めていただいたり、「楽しみにしていた」などと温かい言葉をいただいたりしました。また、普段の販売会以上に言葉遣いに気を付けて話をしたり、製品を丁寧に包んで渡したりすることができました。

畑・織り班 ファブリックボード作り

9月26日(木)に畑・織り班で、外部講師を招いたファブリックボードを作るワークショップを行いました。畑・織り班が丹精込めて織った布や糸の端材を捨てるのはもったいない!何かできないかと考えていたところ、越前織の織ネーム(タグやリボンとして使われています)の端材を使ったユニークな雑貨作りをされている「すてみみあんだ」の山本さくらさんのことを知りました。山本さんに相談すると、「ぜひ、やってみましょう。」と快く返事をくださり、端材を使ったファブリックボードを作るようになりました。ワークショップでは、布や糸の端材を使った「やま」、「しわしわ」、「パラパラ」、「クッション」、「まる」



などユニークな名前の技法を紹介していただきました。また、実際に山本さんが畑・織り班の布や糸の端材を使って作った作品も紹介していただき、新たな商品作りのヒントにもなりました。早速、自分の好きな色や模様、布、糸の端材を使い、教えてもらった技法を駆使しながら白いボードにデザインしていきました。それぞれの生徒が小さな布や糸を貼ったり、積み重ねたり、丸めたりしながら思い思いに仕上げました。山本さんから「ここ、いいね。」「わあ、すごくいいアイデア。」とたくさんの言葉を掛けてもらい、楽しい雰囲気の中、個性豊かな8つの作品が完成しました。できた8人の作品は、1枚の大きな板に貼り、「すうーとんとん、すうとんとん、たのしい声が きこえるね」という文を添え、共同制作「糸と織り」として仕上げました。この共同制作の作品は高文連やアールブリュット展にも出品しました。畑・織り班の活動や生徒たちの作品を多くの方に知ってもらおう機会になったのではないかと思います。

学校祭 虹の市

今年度も学校祭の舞台発表の後、多目的室にて高等部虹の市を開催しました。ワークフェアでの販売が盛況で学校祭までの期間が1か月もない中、仕事の時間に集中して製作を進め、製品を取りそろえることができました。お客さんは保護者、卒業生、教育実習生、離任された教職員の方々が大盛況となりました。焼き物班では製品作りと並行して販売の仕方をみんなで考え、声掛けや陳列方法などを工夫しました。紙と刷り班では、今年度交流している「クラゲ公民館」にちなんだ製品として、水引で作ったくらのキーホルダーやイラスト入りのノートなどを目玉商品として販売しました。畑・織り班では、保護者からアイデアをいただいて織りのはぎれを使った新幹線や車の形のマグネットも制作し販売しました。また、先着20名限定で手作りのおまけをサービスしました。生徒たちは声を出してお客さんを呼び込んだり、おすすめの商品をアピールしたりし、実際に仕事をしている様子を実演して見ていただく班もありました。袋詰めやレジなどの様々な役割も事前に練習して虹の市に臨み、たくさんのお客様と触れ合うことができました。



焼き物班 技術交流会

焼き物班は、毎年恒例の福井南特別支援学校の窯業班との技術交流会を行いました。11月下旬からZOOMを使って、オンラインで顔合わせをしたり、12月3日、16日にはお互いの学校を訪問して、機械ろくろでの成形を体験したり、たたら成形でのお皿作りを教えてもらったりしました。初めは緊張していた様子でしたが、少しずつ緊張もほぐれ「次は、〇〇をします。」「〇〇を取りに行きます。ついて来てください。」などと自分から話し掛けていました。交流会では、生徒一人一人が「自分で考え行動できていた」と感じているようでした。本校の生徒にとって、福井南特別支援学校の窯業班と技術交流することは、焼き物を通して、お互いの学校を知る良いきっかけとなっています。

全学部

日新公民館まつりでの展示

10月20日(日)に、日新公民館まつりが開催されました。地域との交流を図り、本校の教育活動を地域の方たちに知ってもらうために、今年度も日新公民館の一角に全学部の作品を展示しました。小学部からは、ペットボトルで作った風車やマラカス、紙粘土で作ったイルカやアザラシなどの作品を展示しました。また、中学部の花グループからは、貼り絵をアイロンプリントしたトートバッグと染め紙で作った紙バッグ、鳥グループからは、紙粘土で作ったお寿司と学校祭に向けて制作したミニオンを展示しました。そして、高等部からは、焼き物で制作した皿や動物の置き物、フェルメールの絵画の共同作品を展示しました。今年は敬老会との同日開催となり、昨年よりも多くの来場者がいたとのことで、より多くの方々に見てもらえたのではないかと思います。

